

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	統括部局：教務機構	担当部局：教務機構
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。	
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示	
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。	
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。	
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法	
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。	
要素		

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 関西学院大学の学生に身につけさせたい知識や能力を「KG学士力」として定義する。	→「KG学士力」の定義	B	A	A	A	A
2. 「KG学士力」に対応した教育目標や学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を明示、公表する。	→教育目標、学位授与の方針、教育課程の編成・実施方針の決定、公表	C	B	A	A	A
3. 「KG学士力」の質を保証するための仕組みを構築する。	→質保証するための仕組みの構築	C	C	C	B	B
4. 「KG学士力」の質が保証できているかを検証するシステムを構築し、明示する。	→検証システムの構築、明示	C	C	C	C	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2010年4月開設の共通教育センターにおいて検討を進め、FD部会、教務委員会にて検討のうえ、「KG学士力」の定義は2011年3月の教務委員会にて承認された。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 関西学院大学生として共通して身に付けておくべき知識・能力として定めたことにより、各学部の学位授与方針設定の際の指針として活用された。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 求められる人材像も年月とともに変化していくため、適宜見直す可能性もある。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2010年4月開設の共通教育センターにおいて検討を進め、FD部会、教務委員会にて検討のうえ、各学部で策定を依頼した。これを受けて、各学部が教育課程の編成・実施方針を策定し、その内容については2011年7月の教務委員会にて報告された。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 策定した方針は、各学部履修心得やホームページで公表した。各学部の方針を検討することにより、各学部が自己の教育課程をあらためて見直すよい機会となった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 求められる人材像も年月とともに変化していくため、適宜見直す可能性もある。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各学部のFD委員会等で、KG学士力と各学部のDP・CPとの整合性や適切性について検証しているほか、「KG学士力」の高い質を保証するための重要な役割を担う組織として、高等教育推進センターが全学的な教育力向上に取り組んでいる。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各学部のFD委員会等での検証や取組状況を大学FD部会で報告し、情報共有や進捗管理を行ってきた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 各学部のFD委員会等での継続的な検証(PDCA)と大学FD部会での報告・情報交換を行うことで、状況確認を行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか KG学士力に定めた知識・能力の到達度を測るためには、今後は在学生調査、卒業生調査等の調査設計、IRなどの検証システムの構築と分析データの活用方策を検討することが必要であるが、現在までほとんど取り組めていない。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 現在までほとんど取り組めていないため、結果は示すことができない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 高等教育推進センターが主体的に本件に取り組む。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆